

小学校の取組事例

音更町立音更小学校

取組の名称 児童会主催の「雪上おにごっこ」の取組

12月21日(木)中休み

場所：音更町立音更小学校 中庭

校長名 栗原賢次

全校生徒数 406名



【雪上おにごっこの様子】

取組の概要

いじめ根絶に向け、児童会が中心となり、自分たちにできることについて話し合い、交流を深めることにより、絆をつくることをねらいとした集会活動(レクリエーション)を行った。屋外で、思い切り駆け回ることにより、よい交流ができると考え、雪上おにごっこを企画し、実施した。児童会の子どもたちが、おにとり、低・中・高学年のグループ毎に楽しみ、交流を深めた。

【児童の感想】

レクリエーションの中で、仲間を助けるために協力したり、お互いの気持ちや行動に目を向けることができたことがよかった。

成 果

参加した児童は、嬉しそうに走り回り、楽しい時間を過ごすことができたとともに、レクリエーション終了後、とてもよい表情で友だちと楽しかったひと時について語り合う姿が見られるなど、絆を深めた様子が見られた。

音更町立下音更小学校

取組の名称 学校一丸となった「あいさつ運動」の取組

1月22日(月)～2月16日(金)

場所：音更町立下音更小学校

校長名 高橋教之

全校生徒数 302名



【あいさつ運動ののぼり・たすき】

取組の概要

魅力ある学校づくりをねらいとして、以前から児童会が行っていた「あいさつ運動」を更に盛り上げ、たすきやのぼりを作ったり、教員が「あいさつカード」を作り、配付したりすることに取り組んだ。素晴らしい挨拶をしていた児童に「あいさつカード」を配付することにより、普段あまりあいさつのできていない子の「先生が作ったカードを集めたい」という気持ちを高め、元気のよい挨拶をすることにつなげた。

【児童の感想】

児童会の取組が盛り上がり、元気な挨拶がいつも響くようになってよかった。これからも続けていきたい。

成 果

児童のアイデアを活用し、楽しくあいさつ運動に取り組むことができたとともに、学校全体の雰囲気も明るくなり、あいさつを交わすことができる魅力ある学校づくりに資する活動となった。

音更町立駒場小学校

取組の名称 全校体育による異学年交流の取組

7月11日(火) 2・3時間目

場所：音更町立駒場小学校体育館

校長名 長谷川 充

全校生徒数 104名



【異学年による上体起こし】

取組の概要

新体力テストについて、学校規模の特性を生かし、異学年交流による運動への意欲、自己肯定感の向上及び異学年の人間関係構築をねらいとして、全校体育として実施した。1年生から6年生までが、1つの班で活動することにより、各種目の取り組み方を上級生が優しく指導する姿に至る所で見られるなど、思いやりの心や、異学年間の人間関係構築に資する資質・能力を育成することができた。

【児童の感想】

普段の体育と違う雰囲気楽しかった。低学年のお世話をするのは大変だったけど、同じ班の人と協力することで、他の学年の人と仲よく取り組むことができた。

成 果

コロナ禍で全校交流が途絶えていたが、全校体育を通じた異学年交流を実施したことにより、児童間の人間関係が構築され、児童会活動における全校遊び集会等が活発に開かれるようになるなど、全校児童相互の関係の向上が図られた。

音更町立下土幌小学校

取組の名称 音更町立緑南中学校「いじめ撲滅集会」への参加の取組

11月16日(木) 6時間目

場所：音更町立下土幌小学校フリースペース

校長名 菅 野 みゆき

全校児童数 35名



【リモート参加の様子】

取組の概要

緑南中学校生徒会主催の「いじめ撲滅サミット」に、中学校区で連携している木野東小学校と本校の児童会がリモートで参加した。いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、生徒会書記局が中心となって開催し、小学生は、中学校の生徒会の活動を参考としながら、中学校区で連携したいじめ防止の取組について主体的に考えた。

【児童の感想】

中学校の生徒会のいじめをなくすための意見が、とても参考になるとともに、自分の学校でのいじめ防止の活動に役立てたい。

成 果

中学校区で連携した活動を行ったことにより、多様な考え方に触れるとともに、他校の取組と自校の取組を比較することができ、自校の取組をよりよいものにしていこうという態度の醸成及び小中の円滑な接続につながった。

音更町立西中音更小学校

取組の名称 児童会活動「全校遊び」の取組

1月31日(水)昼休み(毎週水曜日の活動)

場所：音更町立西中音更小学校体育館

校長名 松 井 眞 治

全校児童数 15 名



【全校遊びの様子】

取組の概要

毎週水曜日の昼休みに、児童会の三役がいつも全校児童が楽しく遊ぶことができること及び気持ちよく生活できることをねらいとして、「全校遊び」を企画・運営している。遊びの中で明確になった考え方や感じ方の違い等について、子どもたち同士で話し合い、合意形成を図ったり、遊びを通して自己有用感を高めたりすることができる場面を設定した。

【児童の感想】

考えが違う時に、話し合ったことにより、9月に始めた頃よりも、一緒に遊ぶことで仲良くなってきていると思います。

成 果

児童会の三役が計画するに当たり、自分たちの楽しさだけを考えるのではなく、下学年の児童に配慮した計画を立てることを通して、相手意識をもって合意形成を図りながら、「みんなで楽しむ」ことができるようになった。

音更町立東土狩小学校

取組の名称 児童会主体の「ありがとうの木」の取組

9月～12月 1月～3月

場所：音更町立東土狩小学校

校長名 坂 下 亮 宏

全校児童数 23 名



【ありがとうの木の様子】

取組の概要

児童会が中心となり、仲間の大切さに気付くことや相互理解をねらいとして、「ありがとうの木」に取り組んだ。友だちに優しくしてもらったこと、助けてもらったことなどを付箋に書き、校内に掲示しているありがとうの木に貼り付けることを通して、児童が、友だちのよさをたくさん見つけ、満開の「ありがとうの木」を掲示し、全児童で共有した。

【児童の感想】

取組を通して、友だちに認められたことで自信がついた人が増えたと思いました。自信がついたことで、自分で考えて行動する人が増えたと思いました。

成 果

友だちのよさを見つけることにより、今まで気付かなかった相手のよさに気付くことができるようになったとともに、周囲から認められ、お互いに思いやりをもって生活する姿が見られるようになった。

音更町立東土幌小学校

取組の名称 児童会主体の「いじめ根絶に向けて」の取組

2月1日(木)5時間目、通年

場所：音更町立東土幌小学校体育館

校長名 増 田 覚

全校児童数 8名



【『ありがとうの木』の掲示の様子】

取組の概要

互いを認め合い尊重する態度を育てることにより、いじめの未然防止につなげることをねらいとして、児童会が中心となり、児童の嬉しかったことやがんばったことを葉の形の紙に書き、掲示する「ありがとうの木」の取組を通年で実施している。定期的に、児童会が働きかけ、出てきた言葉を全校児童で共有するとともに、2月の全校集会で、友だちとの関わり方の振り返り及び今後の目標の交流をまとめとして行った。

【児童の感想】

自分では何気ない行動でも、感謝されていてとてもうれしかった。これからも相手のことを考え、相手に喜ばれるよう、積極的に行動していきたい。

成 果

児童が、周囲から感謝されることにより、自己肯定感が高まったとともに、周囲に感謝を伝えることにより、相手意識をもって友人と関わる姿が見られるようになるなど、いじめの未然防止に資する態度の育成を図ることができた。

音更町立木野東小学校

取組の名称 中学校区内小中連携によるいじめ根絶に向けた取組

10月12日(木)放課後、11月16日(木)6時間目

場所：音更町立緑南中学校

校長名 野 村 勉

全校児童数 486名



【緑南中での交流会の様子】

取組の概要

中学校区内小中連携を充実させ、いじめを絶対に許さない風土を醸成することをねらいとして、児童会・生徒会の役員交流会や中学校の「いじめサミット」を視聴する取組を行った。いじめ根絶について、児童会役員が、主体的に考え、交流内容を全校放送で全校児童に紹介することにより、「学校からいじめをなくそう」という全校の意識の発揚を図った。

【児童の感想】

生徒会役員から、いじめ根絶の取組や中学生の考え方を聞くことができ、とても参考になった。木野東小学校でも、いじめ0を目指して、がんばりたいと思った。

成 果

小中連携を生かしたいじめ根絶に向けた取組をスタートさせることができたことにより、児童会役員のいじめ根絶に向けた意識が向上した。継続して取り組むことにより、地域一体でいじめ根絶に向けて取り組んでいきたい。

音更町立柳町小学校

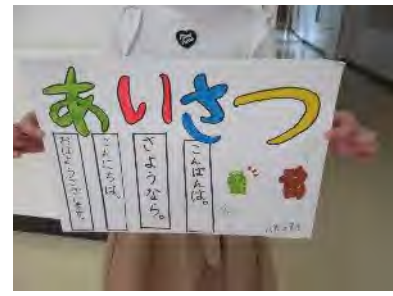
取組の名称 児童会主体の「挨拶十勝一」の取組

1月中旬～2月上旬

場所：音更町立柳町小学校玄関

校長名 河井 義徳

全校生徒数 240名



【挨拶運動ポスター】

取組の概要

児童会活動において、児童が、主体的にいじめのない学校づくりを考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、朝、児童会役員が児童玄関に立ち、挨拶運動に取り組んだ。

事前に児童会の時間を活用し、挨拶を呼びかけるポスターを準備し、挨拶運動時に手に持って、挨拶を呼びかけた。

【児童の感想】

挨拶はとても大事なものだから、学校だけではなく、家庭や地域の人とも気軽に挨拶できるようにしていきたい。

成 果

児童が主体的に活動できるよう、児童会の時間を使い、子どもたち自身が中心になって挨拶運動の企画・運営を進めることにより、自己有用感の向上や社会性が育成され、いじめのない明るい学校づくりに対する意識の高まりが見られた。

音更町立緑陽台小学校

取組の名称 児童会の主体的ないじめ防止の取組

通年

場所：音更町立緑陽台小学校各教室等

校長名 大庭 奈穂子

全校生徒数 138名



【全校給食の様子】

取組の概要

いじめ根絶に向け、児童会が中心となり、児童相互の人間関係の形成をねらいとして、挨拶運動や、全校給食を行った。毎朝、児童会書記局が、児童玄関で挨拶を行い、明るい雰囲気为学校づくりを行ったり、全校給食を企画し、異学年交流する場を設定したりすることにより、学年に関係なく、誰とでも挨拶や会話のできる魅力ある学校づくりを行った。

【児童の感想】

レクリエーションの中で、仲間を助けるために協力したり、お互いの気持ちや行動に目を向けることができたりしたことがよかった。

成 果

挨拶ができる児童が多くなり、学校全体が明るい雰囲気になったとともに、全校給食を通じて、児童相互の人間関係が形成され、「みんなと仲良くしたい」「いじめはどんな理由があっても許されない」という意識を広めることができた。

音更町立鈴蘭小学校

取組の名称 児童会の「あいさつ継続運動」の取組

1月31日(水)～2月22日(木)

場所：音更町立鈴蘭小学校 児童玄関

校長名 森 下 寛

全校児童数 427名



【あいさつ継続運動の様子】

取組の概要

「あいさつ継続運動」の取組を通して、児童が人とのつながりや思いやりの気持ちをもつことの大切さを実感できるようになることをねらいとして、児童会書記局が玄関前に立ち、登校してくる児童に「おはようございます」と元気でさわやかな挨拶を行った。また、下校時は、友だちや先生に「さようなら」と挨拶をするよう呼びかけるなど、挨拶運動の継続に向けた取組を行った。

【児童の感想】

「あいさつ継続運動」を通して、あいさつは「お互いの気持ちをつなげ、相手の心に近づく」ことが理解できた。今後も、あいさつを積極的に続ける大切さを実感した。

成 果

児童会が手本を示し、あいさつの大切さを身近に感じる場を設定することにより、校内の多くの場面で、主体的にあいさつをする態度の育成を図ることができたとともに、次回の取組に係る工夫・改善の意見が出されるなど、児童会活動の充実が図られた。

士幌町立士幌小学校

取組の名称 児童会主催「いじめ根絶挨拶運動」

1月29日(月)～2月16日(金)

場所：士幌町立士幌小学校玄関

校長名 川 原 千 暢

全校生徒数 224名



【挨拶運動の様子】

取組の概要

児童会代表委員会が、いじめのない明るく楽しい学校づくりをねらいとして、月・水・金曜日の毎朝、児童玄関において、登校する児童等に対する挨拶を行い、過ごしやすい雰囲気づくりを行うとともに、火・木曜日の朝、児童会書記局が、全校放送で「おはようございます」の挨拶を行い、校舎内から返される挨拶に対する評価を行い、元気のよい挨拶による楽しい学校づくりの大切さを訴えた。

【児童の感想】

挨拶運動は、やっていくごとに挨拶を返してくれる人が増えてうれしかった。放送で呼びかけると、大きな声の挨拶をし直してくれたことがよかった。

成 果

児童会が主体となって挨拶を奨励することにより、児童が自主的に挨拶を交わすようになり、児童同士の関係が良好になるとともに、いじめのない安心できる学校づくりにつながった。

士幌町立中士幌小学校

取組の名称 児童会主体の「希望の木」の取組

通年

場所：士幌町立中士幌小学校 1 階廊下

校長名 和 嶋 康 彦

全校児童数 32 名



【希望の木の様子】

取組の概要

児童会が主体となり、児童一人一人が、自分や他者のよいところ（言動）を見つけ、それを表出することにより、自己肯定感を高めたり、他者を思いやる心を育んだりすることをねらいとし、自分や他者のよい行いがあった時に、それをカードに記入し、掲示する「希望の木」の取組を行った。児童が、自分や他者のよさを認識するとともに、新たな気付きについて、児童及び教職員全体で共有した。

【児童の感想】

みんなによいところを褒めてもらえてうれしい。いろいろな人が自分を見てくれていることが分かり、がんばろうと思った。

成 果

自分のよさに気付いたり、他者のよいところを見つけようとしたりする態度が見られるとともに、褒め言葉や励ましの言葉等、温かな言葉やポジティブな発言が多く聞かれるようになった。

士幌町立上居辺小学校

取組の名称 児童会主体の「えがおプロジェクト」の取組

通年

場所：士幌町立上居辺小学校玄関ホール

校長名 佐 藤 貴 光

全校児童数 19 名



【えがおプロジェクトの様子】

取組の概要

自分が笑顔になったできごとを振り返る活動を通じて、自己肯定感を高め、他者を大切に、いじめを絶対に許さない態度の育成をねらいとして、児童会三役が中心となり、自分が笑顔になったできごとを笑顔の顔写真とともにカードに書いて玄関ホールに提示するとともに、日常的にカードの内容について交流を行い、それぞれの思いを共有した。

【児童の感想】

友だち同士が笑顔で過ごす気分がよいし、友だちが笑顔になったできごとについて話ができ、友だちのよさが分かった。これからも続けていきたい。

成 果

年 2 回の児童アンケートでは、「自分のよさや友だちのよさを大切にしている」の設問において「よくしている」と回答する児童が、前期 91%、後期 90%となっており、自己肯定感や他者を尊重する態度の高まりが見られた。

上土幌町立上土幌小学校

取組の名称 児童会主催のいじめ防止標語の取組

7月10日(月)

場所：上土幌町立上土幌小学校

校長名 山 田 圭 介

全校生徒数 221 名



【標語募集の呼び掛け(上)
標語の作成に取り組む様子(下)】

取組の概要

児童会主催のいじめ防止標語の取組において、児童がいじめについて考える機会を通して、全校でいじめを根絶する意識の醸成を図ることをねらいとして、児童会三役が中心となり、第3学年以上の児童を対象に「いじめ防止標語」の作成に取り組んだ。児童会長が趣旨説明を行った後、各学級において標語を作成し、三役で各賞を付けるとともに、校内に掲示し、いじめを絶対に許さない意識の醸成に努めた。

【児童の感想】

いじめはよくないことを改めて感じた。いじめをなくすために何をしたらよいか考えることができた。

成 果

児童会が主体となっていじめを防止するための標語を作成する機会を設けたことで、児童一人一人にいじめについて考える時間をつくることができ、いじめを絶対に許さないという意識が高まったと感じている。

鹿追町立鹿追小学校

取組の名称 児童会主体の異学年同士の絆を深める取組

12月8日(金) 2～3時間目

場所：鹿追町立鹿追小学校第4～6学年教室

校長名 山 口 直 哉

全校児童数 200 名



【鹿小まつりの様子】

取組の概要

児童会事務局が中心となり、いじめを未然に防ぐ学校風土を醸成し、異学年交流を通して居場所づくりや絆づくりを推進することをねらいとして、「鹿小まつり」を開催した。第4～6学年の児童が、第1～3学年の児童を楽しませることを目的として、輪投げ等のゲームの企画、運営を行い、上級生が下級生を助けたり、異学年でのコミュニケーションを図ったりする場面を設定した。

【児童の感想】

下級生がとても楽しそうで、たくさんの友だちを連れて遊びに来てくれたことがうれしかった。

成 果

高学年から、低学年を楽しませることに對して、喜びを見出すことができたという感想が多く挙げられ、児童が達成感を感じることができたとともに、相手を思いやる心が養われ、いじめを未然に防ぐ風土を醸成することができた。

鹿追町立瓜幕小学校

取組の名称 児童会主体の「いじめ根絶集会」の取組

9月12日(火) 4時間目

場所：鹿追町立瓜幕小学校体育館

校長名 長 澤 啓 二

全校児童数 35 名



【いじめ根絶集会の様子】

取組の概要

児童が、いじめ問題について主体的に考えることをねらいとして、「いじめ根絶集会」を行った。特別の教科道徳において、各学級でいじめを題材にした学習を行い、いじめる側、いじめられる側の感情について理解を深めた後、「いじめ根絶集会」を行い、学級内で共有したことを学校全体で共有し、異学年のグループごとに、それぞれの視点からいじめが起こる原因やいじめ防止策を話し合った。

【児童の感想】

先生が教えてくれた「対話」の大切さが分かった。もっと話すことで、いい関係が築けるのだと思った。

成 果

いじめ根絶集会実施後の感想に、「いじめを見たら黙ってられない」という記述があるなど、いじめ見逃しゼロに係る積極的な行動への意欲を高めることができた。

鹿追町立通明小学校

取組の名称 「異学年グループでお弁当」の取組

2月16日(金) 給食時間

場所：鹿追町立通明小学校各教室

校長名 小 林 亮

全校児童数 16 名



【異学年グループでお弁当の様子】

取組の概要

児童会三役が主体となり、いじめのない楽しい学校づくりをねらいとして、「異学年グループでお弁当」の取組を行った。異学年グループで取り組んでいる放送当番のメンバーが、普段、食事をとらないスペース(各教室)へ行って、お弁当を食べることにより、上級生が下級生を助けたり、異学年でのコミュニケーションを図ったりする場を設定し、いじめを生まない、許さない態度の育成を図った。

【児童の感想】

普段、なかなかコミュニケーションをとらない異学年と、楽しく会話する機会ができて楽しかった。食事を通してできたつながりを、今後の生活に生かしたい。

成 果

児童同士の間関係の形成に向けて、異学年間のコミュニケーションの機会を設定したことにより、取組後に全児童の自己肯定感・有用感・他者理解に係る態度等の向上といった成果が見られた。

鹿追町立上幌内小学校

取組の名称 児童会主体の「おはよう集会」の取組

通年

場所：鹿追町立上幌内小学校周辺

校長名 永 田 征 志

全校児童数 8 名



【散歩集会の様子】

取組の概要

児童が主体となり、集団の連帯感を育てるとともに学校生活をより楽しく送ることができるようにすることをねらいとして、月に数回の「おはよう集会」を行った。企画・準備・運営を進める際、「相手の元気を考える」「相手が安心して楽しめる」をテーマに「散歩」「読み聞かせ」「ダンス」「すてきなところ発見の木」等、楽しい時間を共有することにより、全校児童 8 名全員の良好な人間関係構築を目指した。

【児童の感想】

友だちが少ないからこそ、一人ひとりがそれぞれの個性を大切にし、関わり合うことができている。全員が学校のことを考えているのが上幌内小のよさだと思う。

成 果

集会活動を通して、相手のよさを共有したり、伝え合ったりすることで思いやりのある言葉がけや行動が見られるようになっていくとともに、一人一人を大切にする気持ちを表す行動が見られるようになった。

鹿追町立笹川小学校

取組の名称 仲良く、楽しく食べよう 体育館給食

1 月 25 日 (木) 給食時間

場所：鹿追町立笹川小学校体育館

校長名 島 田 諭

全校児童数 22 名



【全校給食の様子】

取組の概要

児童会書記局及び各委員会が主体となって、いじめのない楽しい学校づくりをねらいとし、全校給食や全校遊び、お誕生日紹介、スライドショーの上映等の活動を実施した。全校児童が楽しめる活動を考えることや上級生が下級生のお手本になったり、異学年とのコミュニケーションの機会を増やしたりすることにより、いじめを生まない、いじめを許さない態度の育成を図った。

【児童の感想】

学習以外の活動でも、全校で交流する中で、相手を思いやる気持ちや温かい言葉のかけ方等について考えるようになった。これからも相手のことを考えて生活したい。

成 果

小規模校の特性を生かした異学年によるコミュニケーションの機会を設定するなど、「人とのつながり」を意識した活動は、子どもたちの思いに寄り添い、各児童の自己肯定感・有用感・他者理解などの向上に成果が見られた。

新得町立新得小学校

取組の名称 児童会主体の「いじめ根絶集会」の取組

10月2日(月)全校朝会

場所：新得町立新得小学校体育館

校長名 須藤 正博

全校児童数 187名



【いじめ根絶集会の様子】

取組の概要

新得町は全町教育の町として全町民参加による教育を推進している。その取組の中でいじめは絶対に許されないという思いを醸成するために「いじめゼロカード」「感謝カード」に児童や先生方の思いを書き入れ、公民館に掲示している。この取組を児童会が主導し、児童会長が全校朝会で趣旨を説明し、全校児童にカードを作成してもらった。

【児童の感想】

「いじめは許されない」「ありがとうの感謝の気持ち」を町民の方にも伝えることができてよかった。

成 果

「いじめは許されない」という思いを醸成するために、児童会が主導して取り組むことで、児童同士で強く意識を持つことができた。また、広く町民にもこの思いを伝えることができた。

新得町立屈足南小学校

取組の名称 児童会主体の「ふれあいタイム」の取組

朝タイム・休み時間(月1回～2回 2月5日実施)

場所：新得町立屈足南小学校体育館や教室

校長名 池田 圭子

全校児童数 40名



【じゃんけんデーの様子】

取組の概要

全校ふれあいタイムにおいて、児童がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることやみんなで助け合い仲良くすることでお互いのことを認め合うことをねらいとして、児童会三役が中心となり、隔週実施のふれあいタイムや全校児童がなかよくなるための「毎月の〇〇デー」を実施している。ふれあいタイムは縦割り班での意見交流や遊びに全校で取り組んでいる。

【児童の感想】

みんなでどうすれば仲良くなるかを考えて、実際にやってみることで友だちのよいところを発見できた。活動や日常生活の中で、相手を思いやり、言葉を大切にしてみんなで楽しく学校にみんなで行く。

成 果

異学年での活動に取り組むことにより、学年問わず遊んだり、助け合ったりする姿が見られるようになり、児童同士の温かい雰囲気や「いじめを絶対に許さない」態度の育成につなげることができた。

清水町立清水小学校

取組の名称 児童会主体の「交流集会」の取組

2月2日(金) プレイタイム

場所：清水町立清水小学校体育館

校長名 下 坂 吉 彦

全校児童数 276 名



【新聞投げの様子】

取組の概要

児童が運動を通じた交流活動でお互いの仲間意識を高め、いじめを生まない環境・雰囲気づくりをねらいとして、集会活動を児童会が企画・実施した。児童会活動等の時間を活用して協議を重ね新聞投げ大会を行い、人をねらわないよう陣地に残った球の数で勝敗を数えるようにした。児童は友だちと協力しながら自分の陣地に入ってきた球を相手に戻し、親睦を深めていた。

【児童の感想】

楽しかった。友だちと協力しながら球を投げて、運動が得意な子も不得意な子も同じように楽しめた。

成 果

「体を動かす」ことを共通の目標としながら学年に応じた活動を行い、お互いの仲間意識を高めることができた。いじめ撲滅に向けて、これからも児童会主体で集会活動を実施して、児童の仲間意識を向上させていきたい。

清水町立御影小学校

取組の名称 児童主体の「異学年交流会」の取組

12月12日(火) 5時間目

場所：清水町立御影小学校体育館

校長名 谷 口 大 樹

全校児童数 95 名



【異学年交流会の様子】

取組の概要

異学年児童が交流し、「つながり」をもつことにより互いに理解し合い、いじめを根絶することをねらいとして、「異学年交流会」を行った。第4学年と第6学年による「新スポーツを考えよう会」において、第4学年児童が考えた新スポーツを第6学年児童と一緒に楽しみ、児童が主体となった活動により、自主性や主体性を育むとともに、児童の相互のつながりが生まれ、いじめを生まない雰囲気が醸成されている。

【児童の感想】

4年生が考えたスポーツを通して、時間や場所、気持ちの共有ができ、大変楽しかったしうれしかった。

成 果

交流後の児童への聞き取りでは、全ての児童が「楽しかった」と回答し、第4学年児童においては、「6年生が楽しんでくれてうれしかった。」や「他の学年の人と更に仲良くなれた。」など、学年に関係なく、児童のつながりを育むことができた。

芽室町立芽室小学校

取組の名称 児童会主催の「得意なこと発表会」

12月14日(木) 昼休み

場所：芽室町立芽室小学校体育館

校長名 塩田 直之

全校児童数 580名



【得意なこと発表会の様子】

取組の概要

全校児童が、お互いのことをもっと知って仲良くなることをねらいとして、児童会が主体となり、企画・運営を行った。いじめをなくすことに向けて、「学校は楽しいところ」という気持ちを児童一人一人がもてるようにするためには何ができるか考え、実施した企画の1つである。持続的な活動とするため、準備や実施時間を休み時間で負担なくできる内容に設定し実施した。

【児童の感想】

たくさんの方が見に来てくれたのでよかった。みんなの得意なことを伝えることで、全校が仲良くなってきてよかった。

成 果

全学年からたくさんの児童が参加し、盛況な会となった。企画運営に当たった児童も、達成感を感じて終わることができた。みんなが仲良くなることが、いじめ撲滅につながることを実感することができた。

芽室町立上美生小学校

取組の名称 児童会主体の『ニコニコ新聞』の取組

2月8日(木) 全校朝会

場所：芽室町立上美生小学校体育館

校長名 岸 研吾

全校児童数 30名



【ニコニコ新聞発表の様子】

取組の概要

児童会書記局の取組として、児童同士がよいところを認め合うことでいじめのない学校づくりを考え、いじめをなくすことをねらいとして、『ニコニコ新聞』を作成した。少人数の学校の特色を生かし、全校児童が互いのよいところを出し合い、まとめた新聞の交流をした。集会での発表から、さらに学級や全校で思いやりをもって仲良く過ごそうという気持ちの醸成を図った。

【児童の感想】

「たくさんの友だちと遊んですてきだね。」「優しくしてくれてありがとう。」「尊敬します。」「これからもがんばってください。」「これからもよろしくね。」

成 果

新聞のコメントには、互いのよいところが全員分書かれていた。児童会書記局が集会で発表し、掲示した内容を読み合う中で、「仲良くしようね」「これからもよろしくね」などいじめのない学級・学校づくりをしようという意識の高まりが見られた。

芽室町立芽室西小学校

取組の名称 児童会主体の「全校氷探し」の取組

2月14日(水) 2時間目

場所：芽室町立芽室西小学校グラウンド

校長名 阿 部 立

全校児童数 303名



【全校氷探し活動の様子】

取組の概要

全校氷探しにおいて児童が異学年で交流することを通して、自己有用感や他者への感謝の心の育成を図ることをねらいとして、児童会書記局が中心となり企画・準備・当日の進行を行った。高学年と低学年の児童がペア、グループになり、グラウンドに隠してある色氷を探すようにすることで、高学年児童が低学年児童をサポートし、低学年児童が高学年児童に感謝する場面が生まれるようにした。

【児童の感想】

低学年に喜んでもらってよかった。高学年の人が優しく教えてくれたり、手伝ってくれたりしたのでたくさん氷を見つけられてうれしかった。

成 果

全校氷探しの実施後の各学級での振り返りにおいて、自己有用感を感じたり、感謝の気持ちをもったりしたことが伺える発言や記述が多数あったことから、自己有用感や他者への感謝の心の育成を図ることができたと考えられる。

芽室町立芽室南小学校

取組の名称 南小のみんなのすてきな所を集める取組

6月20日(火)～6月30日(金)

場所：芽室町立芽室南小学校1F ホール

校長名 長 尾 全 雅

全校生徒数 77名



【みんなのすてきな所を書いてある木】

取組の概要

<全校児童が毎日明るくて、笑顔で楽しく通える学校にする！>という児童会の活動方針の下『どんなことがあってもいじめはよくない』ということを大事にするため、葉っぱの形の画用紙にみんなのすてきな所を書き込んだ木を児童会3役で作成した。「みんなのすてきな所を書いてある木」を全校児童全員で見合いながら自分のよい所だけでなく、友だちのよい所に気付くことを通じて自他を尊重する気持ちを育む取組となった。

【児童の感想】

自分のよい所の他に友だちのよい所をたくさん知ることができてうれしい気持ちになった。

成 果

ほぼ全員が書いてそれぞれの児童が自分のよさに気付いたり、再確認することによって、南小学校の児童という仲間意識がさらに深まるよい機会となった。また、“他人を思いやる”や“学校が楽しい”という児童アンケートのポイントが上がった。

中札内村立中札内小学校

取組の名称 児童会主体の「異学年交流」の取組

2月1日(木)昼休み 他

場所：中札内村立中札内小学校図書室 他

校長名 牧 伊津子

全校生徒数 204名



【本さがし集会の様子】

取組の概要

全校児童が学年の枠を超えて交流する機会を設定することで、児童相互の人間関係を良好にし、いじめや差別のない態度の育成を図ることをねらいとして集会を行った。児童が主体となって企画し、集会委員会による宝さがし、保体委員会によるスタンプラリー、図書委員会による本さがしなどが企画・実施された。子どもたちは、楽しみながら近接学年の児童との関わり合いを深めることができた。

【児童の感想】

違う学年の人とも一緒に遊んだりゲームをしたりして楽しかった。普段は一緒に遊ぶことはないけれど、一緒にゲームをしておもしろかった。下の学年の子に優しくできた。

成 果

全校児童による異年齢間交流を通じて、児童同士の信頼関係が深まるとともに、教職員が児童理解に努め、良好な人間関係づくりを行うことができた。

中札内村立上札内小学校

取組の名称 児童会「いじめをなくそう集会」の取組

10月17日(火)5時間目

場所：上札内小学校ホール

校長名 菅原晴彦

全校児童数 20名



【縦割りグループ活動の様子】

取組の概要

全校「いじめをなくそう集会」において、児童がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、児童会書記局が中心となり、全体及び縦割りグループで話し合いを進めた。出された意見をまとめながら議論を深めることにより、いじめを起こさないためには、どのような言動が大切かについて考え、全体で共有する取組を実施した。

【児童の感想】

自分にとって嫌な言葉や行動が、相手を傷つけたり、不安にさせたりすることに気付いた。普段から使う言葉や相手への態度に気を付けながら生活したい。

成 果

いじめをなくそう集会の実施後の振り返りでは、「これからは、いじめを見たら勇気を出して注意をしたり、先生に相談したりしたいと思う」などの意見があり、いじめ根絶に対する意識の高まりが見られた。

更別村立更別小学校

取組の名称 「どんぐり村子ども会議」の取組

1月25日(木)6時間目

場所：更別村立更別中央中学校

校長名 山 上 文 博

全校生徒数 123名



【どんぐり村子ども会議の様子】

取組の概要

「どんぐり村子ども会議」において、いじめ根絶に向けて小・中学校の取組を交流し、各校のいじめ根絶に向けた取組の一層の充実を図ることをねらいとして、更別村内の小・中学校の児童会・生徒会代表が集まり、いじめ根絶について話し合いを進めた。更別小学校では、「どんぐり村子ども会議」を受け、児童会役員が中心となり、「更別村いじめをなくそう宣言」を全校児童で確認する集会を行った。

【児童の感想】

お互いを知り、認め合うことが大切であり、更別小学校児童会で取り組んでいる「思いやりの木」をさらに充実させていきたいという気持ちが高まった。

成 果

児童会代表が村内各校の取組を知り、もしいじめが起きた場合、どのような行動をとるか、グループで協議することを通して、いじめについて深く考えることができ、いじめ根絶に対する意識の高まりが見られた。

更別村立上更別小学校

取組の名称 「いじめをなくそう集会」の取組

2月13日(火)5時間目

場所：更別村立上更別小学校体育館

校長名 阿 部 英 一

全校児童数 22名



【いじめをなくそう集会の様子】

取組の概要

児童がいじめの問題を自分ごととして捉え、全校児童と考えを交流することにより、いじめについて深く考えることをねらいとして、「いじめをなくそう集会」を実施した。「更別村いじめをなくそう宣言」を全校で確認した後、宣言の背景や意義について学年ごとに協議し、各学年の意見を交流するとともに、教職員の実体験によるいじめの事例について、自分ならどうするか、という視点で意見を交流した。

【児童の感想】

いじめのある環境は自分の人生にとって困ることだと思う。もし見かけたら強い気持ちをもって助けたり、先生たちに相談したりしたいと思う。

成 果

振り返りでは「いじめは許されないことであるか」の設問に対して「そうは思う」との回答が100%になるなどいじめに対する理解を深めるとともに、集会後の「全校給食」により、児童同士の相互理解やいじめを許さない風土の醸成を図ることができた。

大樹町立大樹小学校

取組の名称 児童会主体の「心をつなげる取組」

通年

場所：大樹小学校ゆうゆうスペース

校長名 袴田 孔

全校生徒数 245名



【「不安ボックス」とマジックショーの様子】

取組の概要

全校児童の心をつなぎ「いじめ」を撲滅することをねらいとして、児童会が主体となり、「不安ボックス」の取組を行った。学校が、児童一人一人にとって安心して過ごすことのできる場となるよう、児童が、日頃の困りごとや悩みなどを投函し、児童会役員を中心に、相談の解決に向けて話を聞いたり、対応策を提案したりした。「児童会マジックショー」など心をつなげ、交流を深める自発的な集会を定期的で開催している。

【児童の感想】

みんなから寄せられた中には「いじめがなくてよかった。字がきれいになりたい。」などの学習についての悩みもあったので、次のイベントの参考にして学校をよくしたい。

成 果

児童が主体となり、自分たちで学校をよりよくしていこうという校風が児童に浸透しているとともに、集会活動等を通して、児童同士の相互理解が深まり、相手意識が育まれ、学校全体で、いじめを絶対に許さない風土の醸成を図ることができた。

広尾町立広尾小学校

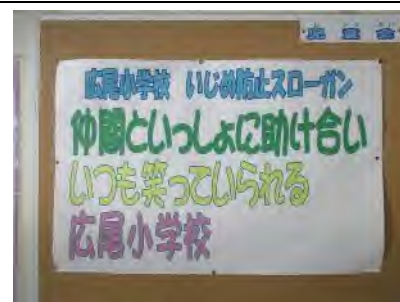
取組の名称 児童会主体の「いじめ防止」の取組

12月1日(金)

場所：広尾町立広尾小学校 各教室

校長名 東 森 誠 記

全校生徒数 183名



【作成したスローガン】

取組の概要

児童一人一人が、いじめは絶対に許されない行為であることを確認するとともに、いじめの未然防止のために自分たちにできることは何かを考えることをねらいとして、児童会三役が、いじめ防止スローガンといじめ根絶のための標語を作成した。作成したスローガンと標語を基に、各学級において、いじめの未然防止に向けて自分たちにできることを考え、各学級の意見を交流し、学校全体の取組について確認をした。

【児童の感想】

他の学年の考えも聞き、いじめは絶対に許されないという思いが強くなりました。これから、友だちや下級生に思いやりの気持ちを忘れず行動していきたいです。

成 果

児童会が中心となったいじめ防止の取組を通して、全校児童が「いじめは絶対許されない」という意識を共有するとともに、全校で考えた取組を行うことにより、学校全体でいじめの未然防止につなげることができた。

広尾町立豊似小学校

取組の名称 「雪合戦」「ピンクシャツデー」の取組

2月15・16日(木・金)昼休み、2月下旬

場所：豊似小学校玄関前広場、フリースペース

校長名 緑 川 昌 浩

全校生徒数 33名



【雪合戦 活動説明の様子】

取組の概要

児童がいじめについて主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、児童会運営委員会が中心となり、「縦割り対抗雪合戦」と「ピンクシャツデー」の取組を実施した。雪合戦は小規模校の特性を生かした全校児童の交流の場にするとともに、ピンクシャツデーの取組を通して、児童がいじめや差別について考える機会となるよう説明を行った。

【児童の感想】

楽しむことができ、明日も学校に行きたいと思った。他の学年と遊ぶのは楽しい。もっと仲良く遊びたい。

成 果

小規模校の特性を生かした縦割り班による取組を通じて、児童相互の交流を一層深めるとともに、児童が主体となったピンクシャツデーの取組により、いじめや差別についての理解を深め、学校全体で、いじめを絶対に許さない風土の醸成を図ることができた。

幕別町立幕別小学校

取組の名称 小中合同あいさつ運動の日の取組

毎月第1・第3水曜日(登校時間)

場所：幕別町立幕別小学校校門、児童玄関

校長名 森 浩 嘉

全校児童数164名



【あいさつ運動の様子】

取組の概要

小中一貫教育で行われる様々な協働活動により、中学校への円滑な接続を図るとともに、児童が主体的に取り組むことにより、所属感・安心感等の創出を図ることをねらいとして、児童会・生徒会が中心となり小中合同あいさつ運動を行った。挨拶を基本にして明るいコミュニケーションづくりを行い、幅広い年齢層において、いじめのない和やかな関係づくりに努めた。

【児童の感想】

あいさつを受けると、明るく元気な気持ちになります。中学校の先輩や先生と関わることで、一体感を感じて楽しいです。

成 果

児童の感想から、小中一貫教育で行われる様々な協働活動を進めることにより、子どもたちが互いに認め合い、関わり合う望ましい関係を築く機会となり、所属感・安心感の高まりが見られた。

幕別町立糠内小学校

取組の名称 節分集会の取組

2月2日(金) 5時間目

場所：幕別町立糠内小学校体育館

校長名 笠原 聡

全校児童数19名



【節分集会の様子】

取組の概要

「いじめ根絶」に向けた取組の一環として、自分や他人のよさを知り、認め合うなど、日常からいじめの起こらない人間関係を構築することをねらいとして、学年を越えた集団での活動を行っている。節分集会では、児童会の三役だけでなく、各委員会がクイズやレクリエーションを企画・運営することにより、全児童の自己存在感を高める取組を設定した。

【児童の感想】

自分の「追い払いたい鬼」を退治して、自分がもっとよくなろうと思った。友だちと楽しく過ごせたので、これからも仲よくしたいと思った。

成 果

児童が、自分たちで企画した集会を他の児童と楽しく過ごすことにより、自分や他人のよさを認め、お互いを大切にしながら楽しく生活していこうとする意識の高まりが見られた。

幕別町立古舞小学校

取組の名称 「人権教室」の取組

12月12日(火) 5・6時間目

場所：幕別町立古舞小学校各教室

校長名 猪股 宏 亮

全校児童数11名



【人権教室の様子】

取組の概要

いじめに対して児童が主体的に考えることをねらいとして、人権擁護委員を外部講師に招聘した人権教室を行った。低学年は、人権カルタに取り組み、自分自身がかけがえない存在であることや友だちとの気持ちのよい関わり方について、中・高学年は、絵本を読み進めながら、いじめによる悪影響や身近な人を失うことの悲しさを考え、全体で交流し共有した。

【児童の感想】

人に優しくすると、みんなが笑顔になることが分かった。いじめによって、人の脳がダメージを受けることが分かった。

成 果

言動のよしあしにより、相手の心や体の反応が変わることを実感することができた。その後の学校生活において、相手を思いやる行動が増え、いつも以上に温かな雰囲気広がりが、いじめを絶対に許さない意識を高めることができた。

幕別町立明倫小学校

取組の名称 児童会主体の児童集会の取組

毎月月初め(中休み)

場所：幕別町立明倫小学校ホール

校長名 小野田 年 克

全校児童数 9 名



【クリスマスイベントの様子】

取組の概要

児童会が主体となり、集団としての絆を深め、「いじめを絶対に許さない」態度の育成をねらいとして、児童集会を行った。誕生日会やお楽しみ会、季節に合わせたイベントなどを児童会が主体となって企画し、誰もがすぐにできるようなゲームなどを行って楽しい時間を共有するとともに、異学年交流を通して全校児童の人間関係づくりを行った。

【児童の感想】

「みんなと過ごす楽しさを感じることができた。」「友だちの好きなことを知り、たくさん話してみようと思った。」

成 果

集団で活動する際、相手のことを考えて企画運営することの重要性について理解するとともに、友だちのことを理解して関わり、思いやりをもって行動する意識を高めることができた。

幕別町立途別小学校

取組の名称 Happyわくわく集会の取組

2月9日(金)中休み

場所：幕別町立途別小学校体育館

校長名 佐 竹 宏 子

全校児童数 18 名



【Happyわくわく集会の様子】

取組の概要

児童会三役が中心となり、異学年の交流を通じて、お互いのことについて、よく知り、互いを気遣うことにより、いじめのない学校づくりを行うことをねらいとして、「Happyわくわく集会」を行った。高学年の児童が低学年の児童を気遣ったり、低学年の児童が高学年の思いを感じたりするなど、全校児童が、コミュニケーションをとる必要がある人間知恵の輪を設定した。

【1年生の感想】

6年生が優しく動き方を教えてくれて、安心した。あまり話したことのない上の学年の人と話すことができてうれしかった。

成 果

異学年間のコミュニケーションの場を設定したことにより、子どもたちの自然な学び合いが生まれるとともに、高学年は低学年の児童に対する思いやる姿が見られるなど、いじめ根絶に対する意識の高まりが見られた。

幕別町立白人小学校

取組の名称 他学年交流の取組

2月7日(水) 昼休み

場所：幕別町立白人小学校体育館

校長名 佐藤 晃 啓

全校児童数215名



【他学年交流の様子】

取組の概要

児童会三役が中心となり、異学年間の交流を通じて人間関係を深め、相手の立場を理解し、関わることをねらいとして、他学年交流を行った。第1学年と第4学年でおにごっこ、第2学年と第5学年で風船ゲーム、第3学年と第5学年でバランスドッジボールを行うなど、普段、関わりの少ない異学年間の交流の機会を設定した。

【児童の感想】

手つなぎおにの中で、お互いに声を掛け合って、楽しかった。自然と拍手が沸き上がったことから、みんなが楽しかったことが伝わってきた。

成 果

各委員会が主体となった児童のアイデアを盛り込んだ異学年交流を行ったことにより、休み時間等も異学年の児童同士がコミュニケーションをとる姿が見られ、相手の立場を理解し、関わる意識の高まりが見られた。

幕別町立札内南小学校

取組の名称 児童会主体の「コミュニケーションを大切にする」の取組

年間5回

場所：幕別町立札内南小学校児童玄関前 通学路

校長名 高 充 慶

全校児童数604名



【あいさつ運動の様子】

取組の概要

児童会書記局が中心となり、異学年の児童同士が積極的にコミュニケーションを図ることをねらいとして、あいさつ運動を各学期、児童玄関前で行った。また、「南っ子祭り」を行い、準備期間や当日の運営を通して、異学年児童同士や児童と教師のコミュニケーションを図り、困ったことや悩みを気軽に伝え合える場づくりを行った。

【児童の感想】

日常生活の何気ない言葉や行動が、相手を傷つけていたり、不安にさせていたりすることに驚いた。今後、自分の言動や行動に気を付けようと思った。

成 果

コミュニケーションの基本となるあいさつに焦点化した活動を行ったことにより、異学年交流が促進され、学年に関わらず、仲良くする児童たちの姿が見られ、学校評価において高く評価された。

幕別町立札内北小学校

取組の名称 児童会主体のステキな木の取組

12月から2月

場所：幕別町立札内北小学校児童玄関前

校長名 大石 浩之

全校児童数234名



【ステキな木の様子】

取組の概要

児童会書記局が中心となり、相手を思いやる心の育成をねらいとして、「おもいやりボックス」と「楽しかったボックス」を設置して全校児童が感じた周りの人のよさやすくてきな行動等を募集した。児童玄関に、模造紙で飾った大きな木に、「おもいやりボックス」や「楽しかったボックス」に集められた紙を木の葉のように貼り、全校児童が共有できるよう、掲示した。

【児童の感想】

ステキな木を通して、たくさんの人たちが自分や友だちのよいところを見つける機会となって、明るく温かい気持ちになった。

成 果

児童が思っていることを素直に表すとともに、それを周囲の児童が受け入れることにより、集団の中に支持的風土が生まれ、いじめの未然防止に資する環境づくりを行うことができた。

幕別町立忠類小学校

取組の名称 人を傷つけないための言葉を共有する取組

2月16日（金）6時間目

場所：幕別町立忠類小学校体育館前廊下

校長名 浪内 洋一

全校児童数55名



【ふわふわ言葉の掲示の様子】

取組の概要

人を傷つけないために、どんな言葉を使ったらよいのかを考える活動を通して、いじめをなくし、心優しくありたいと願う気持ちを育むことをねらいとして、「ふわふわ言葉」と「チクチク言葉」について考え、心が温まる言葉、思いやりのない言葉について全校で考える活動を行った。日頃言ったり、言われたりした「ふわふわ言葉」を集めて、掲示することで共有を図った。

【児童の感想】

この活動をしたことで、生活の中で積極的にふわふわ言葉を取り入れることができ、学校がより過ごしやすくなると思いました。

成 果

全校児童が通る箇所に掲示することにより、日常的に「ふわふわ言葉」を意識することができ、「イジメや自殺などがなくなり、心優しい人だけの学校になる」といった児童の声が聞こえ、いじめ根絶に向けた気持ちの高まりが見られた。

池田町立池田小学校

取組の名称 **みんな、なかよくなるう集会**

12月18日(月)3時間目

場所：池田町立池田小学校体育館

校長名 稲葉 珠樹

全校生徒数 201名



【全校ゲームの様子】

取組の概要

児童会が中心となり、全校児童がゲーム等のレクリエーションを通じて交流を深め、いじめのない学校にすることをねらいとして、全校集会を開催した。司会の児童が「みんながなかよくなるため」「いじめをしないこと、いじめはよくないこと」という集会の目的を全校児童に伝えるとともに、終わりの会では、みんなから感想を聞き、改めていじめのない学校にすることについて確認した。

【児童の感想】

他の学年の人とも協力してゲームをしたり、仲良くしたりすることができた。みんなと遊べて楽しかった。いじめのない学校にしたい。

成 果

学期に一度、全校児童で交流を深める時間を設け、異学年の児童とつながりをつくり、みんなで活動する楽しさを味わわせることにより、児童の相互理解を深め、いじめの根絶やいじめの未然防止に対する意識を高めることができた。

豊頃町立豊頃小学校

取組の名称 **児童会主体の「縦割り活動」の取組**

通年

場所：豊頃町立豊頃小学校各教室・体育館

校長名 笠松 真一郎

全校児童数 94名



【縦割り作品発表の様子】

取組の概要

異学年交流を通して児童同士が交流を深め、よりよい人間関係の構築をねらいとして、全校児童を6つの縦割りグループに分け、児童が主体となって、作品発表会や各グループのレクリエーションを実施した。全校児童で行うレクリエーション等を通じて、全校児童が互いに交流を深め、打ち解け合う雰囲気醸成し、いじめの発見や悩みを気軽に相談できる環境づくりを行った。

【児童の感想】

上級生と一緒に遊んでくれたり、優しく接してくれたりで、学校がとても楽しいし、全校のみんながとても仲がよいので、学校に行くのが楽しみです。

成 果

異学年での活動を行うことにより、互いを理解して認め合う態度を育成するとともに、学級担任以外の教員との関わりを通して、多面的・多角的な児童理解の充実につながるなど、学校全体によるいじめの組織的な未然防止、早期発見につながった。

豊頃町立大津小学校

取組の名称 児童会主体の「全校レクリエーション」の取組

2月9日(金)昼休み

場所：豊頃町立大津小学校体育館

校長名 小副川 浩

全校生徒数 11名



【サッカー大会の様子】

取組の概要

他学年との交流を図ることで児童が互いの理解を深め、思いやりの心の涵養や自己開示できるよりよい人間関係の構築をねらいとして、児童会執行部による全校レクリエーションとして、サッカー大会を実施した。全校児童が異学年によるチームプレーを通じて、相互理解を深めるとともに、互いを思いやる態度の育成につながるよう、全校児童を均一に分けてチームを編成し、交流を深められるよう工夫した。

【児童の感想】

疲れたけれど、みんな笑顔で元気にサッカーができて、楽しかった。ゴールに入れられて、友だちと喜ぶことができてよかった。

成 果

小規模校の強みを生かした学校行事や全校レクリエーションなどの全校児童の絆を深める活動により、児童アンケートにおいて、全校児童が「学校が楽しい」と評価するなど、学校が安心、安全な居場所となり、いじめの未然防止につなげることができた。

浦幌町立浦幌小学校

取組の名称 児童会主催の「いじめ根絶 異学年交流」

2月13日(火)20分休み

場所：浦幌町立浦幌小学校グラウンド

校長名 鈴木 洋 孝

全校生徒数 154名



【全校おにごっこの様子】

取組の概要

児童がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、児童会中央委員会が中心となり、体を動かしながら全校児童が仲良く、楽しめる企画を実施した。取組の目的を意識させるため、交流の前後に各学年でいじめについて考える時間を設定し、異学年との交流を通して学年に関係なく親しくできる機会をもち、「いじめを生まない」人間関係の構築を図った。

【児童の感想】

いじめについて考えるきっかけとなった。自分がされて嫌なことは、人にも絶対しないよう気を付けようと思った。浦小からいじめが起こらないようみんなで気を付けたい。

成 果

実施後のアンケートでは、「何があってもいじめはダメ」「いじめを見たら見て見ぬふりをしない」などの記述があるなど、いじめに対する正しい理解が深まるとともに、いじめ根絶に対する意識を高めることができた。

浦幌町立上浦幌中央小学校

取組の名称 「いじめ撲滅集会」の取組

12月15日(金)5時間目

場所：浦幌町立上浦幌中央小学校体育館

校長名 棚橋 亨

全校児童数 19名



【いじめ撲滅集会の様子】

取組の概要

児童会が自ら企画・運営することを通して、学校全体でいじめを絶対に起こさせない意識を高めることをねらいとして、いじめ撲滅集会を実施した。全校児童が笑顔になれるようなゲームを実施することにより、児童相互の交流を深め、学校生活の楽しさを実感させるとともに、全校児童が、積極的に自分から周りの人を笑顔にできる行動を行っていくことを確認した。

【児童の感想】

いじめをしないことはもちろんのこと、自分から進んで周りの人を笑顔にできるような行動をしていこうと思った。

成 果

取組を通して、自分から積極的に周りの人を笑顔にできるよう、積極的に働きかけようとする児童が増え、いじめをなくそう、いじめは許されることではないという意識を高め、いじめの未然防止につなげることができた。

本別町立本別中央小学校

取組の名称 児童会主体の「みんな仲良く集会」の取組

2月8日(木)3時間目

場所：本別町立本別中央小学校 各教室

校長名 森 本 聡

全校生徒数 163名



【魚つりを楽しんでいる様子】

取組の概要

児童会が主体となり、全校児童の仲を一層深め、いじめの根絶につなげることをねらいとして、3年生以上の各学級が出し物を用意し、全校児童でみんな仲良く集会を行った。個人や発達段階における感じ方の違いを踏まえ、相手が楽しいと思うことを考えることにより、互いの違いを認め合う態度の育成を図るとともに、感想を交流することにより、相手への理解を深めることができるよう取り組んだ。

【児童の感想】

低学年を楽しませることは難しいと感じた。もっと相手のことを考えてみんなで話を進めたらよかったと思う。また、チャレンジしたい。

成 果

児童の振り返りにおいて、「もっとみんなで仲よくなりたい」「友だちに腹を立てないように気を付ける」という記述が見られるなど、相手の気持ちを理解し、一緒に楽しもうとする気持ちが高まり、いじめを絶対に許さない雰囲気醸成することができた。

本別町立勇足小学校

取組の名称 児童会主体の「いじめ・けんか防止」の取組

2月5日(月)昼休み

場所：本別町立勇足小学校各学級

校長名 館 英 樹

全校生徒数 35 名



【児童会活動の様子】

取組の概要

児童会書記局が中心となり、児童の交流を深め互いを思いやる態度の育成をねらいとして、いじめやけんかをなくすためにはどうすればよいかについて、全校へアンケートを実施した。児童会書記局が意見をポスターとしてまとめ、児童玄関に掲示して全校児童に共有するとともに、アンケートの意見を基に「全校クイズ大会」「全校そりりレー」を行い、全校児童が交流を深める場を設定した。

【児童の感想】

いじめ、けんかをなくすアンケートに取り組んだことで、一人一人が協力できるようになってきた。児童会の活動でも他学年との仲がより深まった。

成 果

発達支持的生徒指導の一環として、児童会主体の活動を積極的に取り入れることにより、児童の互いを思いやる態度が育まれるとともに児童相互の交流を深め、いじめを未然につなげることができた。

本別町立仙美里小学校

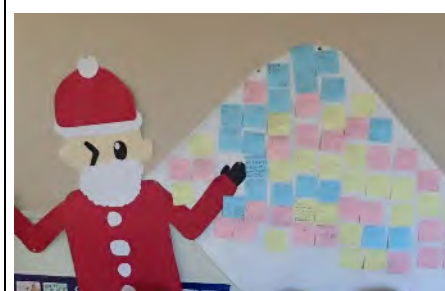
取組の名称 児童会主体の「ありがとうカード」の取組

期 間：12月

場 所：校舎1階廊下

校 長：松 下 政 博

児童数：26名



【ありがとうカードの様子】

取組の概要

児童会が主体となり、児童が自分のしていることに自信をもち、自分が大切にされていると感じられるよう、互いに感謝の気持ちを伝え合うことにより、児童同士のよりよい関係を構築することをねらいとして、「ありがとうカード」の取組を行った。児童と教師が廊下の模造紙に、友だちへの感謝やよさを書いた付箋を貼ることにより、自己有用感を高め、互いを認め合う態度の育成を図った。

【児童の感想】

友だちからお礼を書いてもらえて、うれしかった。友だちが喜ぶところを見て、自分もうれしくなった。この取組をまたやりたい。

成 果

教師も児童も参加でき、児童から肯定的な感想が多く聞かれるなど、学校全体で居心地のよい関係を構築し、安心・安全な居場所をつくることにより、いじめを絶対に許さない風土を醸成することができた。

足寄町立足寄小学校

取組の名称 「どんな学校にしていきたいか会議」の取組

8月24日(木)朝の時間

場所：足寄町立足寄小学校

校長名 大宮 秀夫

全校児童数 232名



【会議で話し合う児童の様子】

取組の概要

児童が主体的によりよい学校にしていきたいための方法について話し合うことにより、みんなが楽しく、明るく過ごせるいじめのない学校風土の醸成をねらいとして、児童会が中心となり、全校児童が交流を深めることができる企画を行った。全校児童の協力を得て取組を行うことにより、普段なかなか話すことのない異学年との交流や悩みを抱える児童の手助けになるよう考えながら活動を行った。

【児童の感想】

いじめの問題に限らず、困っている人がいたら助けてあげたい。また、お互いに話しかけたりすることでコミュニケーションを図ることが大切だと感じた。

成 果

児童が、みんなが仲良く生活するための工夫について深く考えることにより、相手の気持ちを想像して生活し、思いやりを持って友だちと接することの重要性を再認識することができ、学校全体でいじめの未然防止につなげることができた。

足寄町立大誉地小学校

取組の名称 シャベリ場「仲良く過ごすために」の取組

毎月 朝の時間

場所：足寄町立大誉地小学校音楽室

校長名 斉藤 貴史

全校児童数 8名



【シャベリ場の様子】

取組の概要

全校児童が集まって話し合うことにより、児童の聞く力・話す力を高め、相互理解を深めることをねらいとして、毎月、シャベリ場の取組を行った。8月のシャベリ場では、「みんなが仲良く過ごすためにはどうしたらよいか」について考えることにより、いじめの未然防止について全校児童が主体的に話し合うとともに、全学年から出た意見を基に、高学年が全員で行う取組をまとめた。

【児童の感想】

いじめの問題に限らず、困っている人がいたら助けてあげたい。また、お互いに話しかけることでコミュニケーションをとることが大切だと感じた。

成 果

話合いを通して、自らの生活を振り返り、みんなが仲良く生活するための工夫について深く考え、相手の気持ちを想像して生活し、思いやりを持って友だちと接することの重要性を再認識することにより、学校全体でいじめの未然防止につなげることができた。

足寄町立芽登小学校

取組の名称 伝え方教室(アサーティブコミュニケーションをめざして)

11月10日(金) チャレンジタイム

場所: 足寄町立芽登小学校 低・中・高学年教室

校長名 宮 崎 哲

全校生徒数 29名



【作った動画を発表する様子】

取組の概要

児童会福祉委員会が中心となり、「傷つく言い方をする人がいる」「イライラを仲間にはぶつけないような学校にしたい」との願いをもち、相手を傷つけず自分も我慢をしないコミュニケーションを身に付けることをねらいとして、福祉委員会の児童7名がセリフを考え、動画作りを行った。各教室で全校児童へ呼びかけるとともに、動画を廊下で繰り返し放送するなど、全校児童への意識付けに取り組んだ。

【児童の感想】

動画を見て傷つく言い方をする人が減ったと思う。怒ったりイライラをぶつけられたりして悲しい気持ちになったことがあるので、自分も伝え方に気を付けていきたい。

成 果

児童が自分の思いの伝え方を振り返るきっかけになるとともに、活動後も指導を継続して行うことにより、互いを尊重するコミュニケーションの意識が高まり、いじめ根絶に向けたよりよい関係づくりを行うことができた。

足寄町立螺湾小学校

取組の名称 児童会発信の「いじめの絵本読み聞かせ活動」

12月14日(木) 昼休み

場所: 足寄町立螺湾小学校 図書室

校長名 竹 島 浩

全校児童数 14名



【読み聞かせの様子】

取組の概要

全校児童がいじめについて考え、正しい理解を深めることをねらいとして、児童会活動の「図書の日」において、いじめを題材とした絵本の読み聞かせを行った。高学年を中心に、どの学年においても、いじめを自分事として考えることができる内容の絵本を選定して読み聞かせ、絵本の感想を話し合うことでいじめに対する思いを共有し、いじめの未然防止に対する意識の醸成を図った。

【児童の感想】

読み聞かせの2冊の絵本の共通点を考え、「いじめはよくない」ということをみんなで考えることができてよかった。

成 果

上級生が、下級生に問いかけながら読み聞かせを行ったことにより、普段身近に感じることの少ないいじめについて、自分事として捉えて考えることができ、学校全体でいじめを絶対に許さない風土の醸成を図ることができた。

陸別町立陸別小学校

取組の名称 「縦割り交流遊び」の取組

12月1日(金) 4時間目

場所：陸別町立陸別小学校体育館

校長名 小 田 浩 平

全校児童 83 名



【縦割り交流遊びの様子】

取組の概要

異学年児童が、ゲームやスポーツで交流することを通して、自己有用感やコミュニケーション力を向上させ、いじめをしない・許さない態度の育成を図ることをねらいとして、5年生が中心となり、縦割り班でドッジボールや風船ミニバレーなどを行った。みんなが楽しみながら交流し、相互理解を深めることができるよう、下学年の児童の意見も取り入れて、ゲームや遊びの内容を工夫した。

【児童の感想】

5年生がたくさん意見を聞いて遊びを決めてくれた。みんなでたくさん遊べてとっても楽しかった。また一緒に遊びたい。

成 果

高学年が中心となって、下の学年の面倒を見ながら楽しく活動することで、子どもたち同士の信頼関係や友情・絆が育まれ、取組を通して児童のいじめ根絶の意識を高め、いじめを生まない集団づくりにつなげることができた。

帯広市立帯広小学校

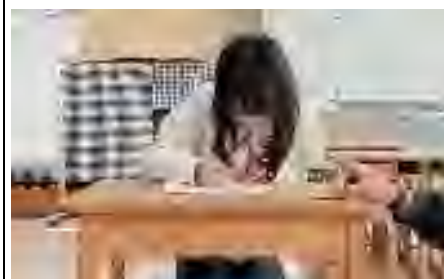
取組の名称 児童会主体の「帯小T i k t o k」の取組

10月～11月 給食時間

場所：帯広市立帯広小学校 放送室

校長名 野 中 利 晃

全校児童数 194 名



【特技を発表したテレビ放送の様子】

取組の概要

本校の児童会のテーマである「自信をもって未来にチャレンジ！」に基づき、自己肯定感や互いを認め合う意識を高め合うことをねらいとし、児童会事務局が主体となり、児童の得意なことや挑戦したいことを募集し、動画を撮影した。撮影した動画を給食時間に校内放送で放送し、児童同士の多様性を認め、他者を尊重し、互いを理解しようとする態度の育成を図った。

【児童の感想】

この取組によって友だちのよさを知ることができてうれしい気持ちになった。自分に自信をもつことができ、これからも積極的に挑戦していこうという気持ちになった。

成 果

挑戦したことを映像にして、全校で共有することにより、挑戦を発表した児童の自己肯定感の高まりに繋がるとともに、他学年同士の多様性を認め、他者を尊重し、互いを理解しようとする意識が高まった。

帯広市立西小学校

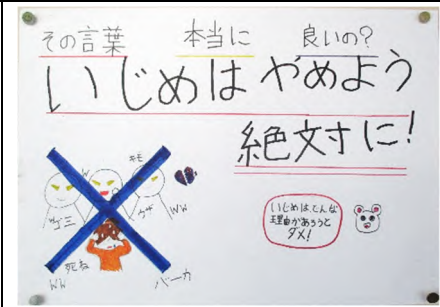
取組の名称 児童会主体の「いじめ根絶」の取組

12月22日(金)3時間目

場所：帯広市立西小学校体育館

校長名 渡辺 教 浩

全校児童数 173名



【いじめ非行防止ポスター】

取組の概要

児童会が主体となった「いじめ根絶」の取組を通して、いじめを絶対に許さない態度を育成することをねらいとし、「いじめ非行防止ポスター・標語」を募集し、校内に掲示するとともに、児童会便りにより「いじめ根絶」の呼びかけを行った。また、児童会主催のミニ集会として「いじめ根絶集会」を実施し、全校児童で協力し合う活動を通して全校児童の絆を深め、「いじめ未然防止」や「いじめ根絶」への意識を高めた。

【児童の感想】

いじめ非行防止の標語やポスターをみんなが見ることで、いじめがなくなってほしいと思った。全校集会で、みんなが仲良くなれたと思った。

成 果

小・中学校のいじめ根絶の取組をファミリー・サミットで交流し、中学校区内におけるいじめ根絶の意識が高まった。小・中学校が連携した取組により「いじめ根絶」の取組を進めることで、いじめを絶対に許さない態度が養われた。

帯広市立柏小学校

取組の名称 児童会主体の異学年との「いじめ防止」の取組

5月～2月

場所：帯広市立柏小学校玄関・グラウンド

校長名 澤 田 靖

全校児童数 409名



【挨拶ビンゴカードの様子】

取組の概要

児童会事務局が中心となり、あいさつ運動や異学年交流などの活動を通して、全校児童の積極的な交流を推進し、児童同士が相互の理解を深め、いじめの未然防止に努めることをねらいとして、前期の挨拶ビンゴカード、後期の世界の挨拶カードによるあいさつ運動を週3回、登校時間に行うことにより、積極的な交流を実施した。また、保健体育委員会による、異学年との鬼ごっこやドッジボール大会などを開催し、交流を深めた。

【児童の感想】

あいさつ運動では、自分から挨拶をすることで、1日を元気に過ごすことができた。また、異学年交流では、楽しく交流することで互いのよさを発見することができた。

成 果

児童会事務局のあいさつ運動や各専門委員会の主体的な活動を通して、児童同士の交流の場が増え、異学年交流が活発になった。また、交流を通して、相手を思いやる気持ちの大切さや自分のよさにも気付くことができ、自己肯定感の高まりにつながった。

帯広市立明星小学校

取組の名称 いじめ防止授業週間の取組

5月15日(月)～5月19日(金)

場所：帯広市立明星小学校各教室

校長名 伊賀真美

全校児童数 373名



【いじめ防止授業の様子】

取組の概要

いじめを絶対に生まない環境をつくること、いじめを絶対にしない態度を身に付けさせることをねらいとして、いじめ防止授業週間を設定し、いじめ防止に関する道徳の授業を全校一斉に実施した。授業は、学級担任をはじめ、管理職による授業も行い、明星小学校いじめ防止基本方針を確認した後、各学年に合わせた道徳のいじめ問題に係る教材を用いて、児童が話し合いを通じて、いじめ問題に対する考えを深めた。

【児童の感想】

言葉は人の心を温かくすることも、傷つけることもできる。自分はふざけているつもりでも相手を傷つけていることがある。誰に対しても優しい気持ちで接したい。

成 果

いじめ防止授業週間で、いじめがあった時にどうするかだけでなく、いじめを生まない学校づくりについて考え、児童が主体的に話し合う時間を設けることで、児童が自分事として考え、いじめに対する正しい理解を深めることができた。

帯広市立緑丘小学校

取組の名称 児童会主体の「いじめをなくそう動画」の取組

1月29日(月)～2月2日(金)

場所：帯広市立緑丘小学校各教室

校長名 川上裕明

全校児童数 452名



【いじめをなくそう動画の一場面】

取組の概要

良好な人間関係の醸成といじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、児童会事務局が全校児童へ向けて「いじめをなくそう」動画を作成した。動画は、日常生活の中でいじめにつながる場面やいじめた時の気持ちを問う場面等で構成した。作成した動画を各教室で視聴し、全校児童がいじめをなくすために、思いやりの心をもって助け合いながら楽しい学校生活を送ることの大切さについて考えた。

【児童の感想】

自分は遊びのつもりでやってしまったことが、相手を傷つけてしまっていることがあることに気付いた。みんなが楽しい学校生活を送ることができるようにしていきたい。

成 果

動画による発信を通して、相手の気持ちを考えて行動しようとする児童の姿が見られるようになるなど、他者を思いやる心を育成するとともに、いじめを絶対に許さない態度を育成することができた。

帯広市立北栄小学校

取組の名称 児童会主体のみんな仲良し「遊び集会」の取組

2月9日(金) 3時間目

場所：帯広市立北栄小学校体育館

校長名 柴 山 敬

全校児童数 320名



【遊び集会の様子】

取組の概要

学年の枠を超えた交流活動を通して、温かな学校の雰囲気醸成するとともに、仲間を思いやる心やいじめを絶対に許さない態度の育成をすることをねらいとして、児童会が中心となり、異学年交流による「みんな仲良し遊び集会」を企画した。前期・後期それぞれ1回ずつ、異学年が交流し、触れ合いを通して、互いの理解を深めることができ得よう内容やルールを工夫した取組を行っている。

【児童の感想】

学年の違う友だちと、みんなで集まって遊ぶのが楽しかった。仲良く遊ぶことができよかった。楽しかったので来年もやってほしい。

成 果

日常、関わりの少ない学年同士と一緒に遊ぶことにより、交流を深め仲良くなったり、上級生が下級生を気に掛けたりすることも多くなり、学校全体において、仲良く、互いを認め合う和やかな雰囲気を醸成することができた。

帯広市立光南小学校

取組の名称 児童会主体の「みんなで遊ぼう集会」の取組

1月29日(月) 2、3時間目

場所：帯広市立光南小学校体育館

校長名 小 澤 容 子

全校児童数 346名



【遊びの集会の様子】

取組の概要

全校児童がお互いを知り合うことで交流を深め、いじめ0を目指すことをねらいとして、児童会が主体となって4～6年生がお店を出し、第1～3学年がお客さんとなって交流した。全校児童が交流する機会を意図的、計画的に設定することにより、高学年が低学年の面倒を見たり、低学年が高学年の振る舞いを見たりすることにより、互いを理解して、認め合い、全校児童が仲良くいじめのない学校を目指した。

【児童の感想】

保育園の園児も来て、最初はどのように接してよいか分からなかったけれど、時間が経つうちに上手に接することができた。楽しかったと言ってくれて、うれしかった。

成 果

活動を通して、異学年の児童同士がコミュニケーションをとることにより、お互いのことを知るとともに、全校児童が交流することの意義や上級生が下級生の面倒を見ることにより、いじめ根絶に向け、他者を尊重する態度を育成することができた。

帯広市立東小学校

取組の名称 児童会主体の「異学年交流」の取組

9月、1～2月

場所：帯広市立東小学校体育館

校長名 辻 勝 行

全校児童数 202名



【異学年交流活動の様子】

取組の概要

異学年が共に身体を動かし、対話することを通じ、多様な価値観を受容し、共につながり合い、創造しようとする態度の育成を図ることをねらいとして、児童会役員が中心となり、異学年交流を計画・実施した。交流の際、リーダーが、「全ての人楽しく、気持ちよく過ごすためにはどうしたらよいか」という問いかけを行ったことにより、一人一人が思いやりの心を意識して活動し、積極的に異学年交流を進めることができた。

【児童の感想】

高学年のお兄さんやお姉さんが、優しく教えてくれてうれしかった。自分も大きくなったら、小さい子たちが困ったり嫌な思いをしたりしないように丁寧に優しく接したい。

成 果

上級生が下級生に分かりやすい言葉を選んで説明する姿や、下級生が上級生を慕って話しかける姿がこれまで以上に見られようになった。共に活動し、対話することで、多様な他者への理解と絆が深まり、温かな人間関係を築こうとする意識が高まった。

帯広市立啓西小学校

取組の名称 児童会主体の「あいさつ運動」の取組

6月～2月

場所：帯広市立啓西小学校各階ラーニング

校長名 折 出 雅 史

全校児童数 347名



【あいさつ運動の様子】

取組の概要

児童がお互いに挨拶を交わす機会を増やし、学校生活を明るく元気に過ごすことで、いじめを生まない雰囲気醸成することをねらいとして、児童会代議委員会が中心となり、ポスターを手に持ちながら、あいさつ運動に取り組んだ。代議委員会が「おはようございます！」と元気な声をかけると、声をかけられた児童も笑顔で応えていた。挨拶を交わすことで、交流が深まり、互いを気遣う雰囲気が見られた。

【児童の感想】

元気に挨拶をすると、挨拶をする方もされる方もうれしい気持ちになる。会話が增えると相手のことを知ることができるので、仲がよくなると思った。

成 果

児童会の代表を中心に、自ら挨拶を交わす取組を実践することで、全校児童に挨拶の輪が広がった。児童同士が声を掛け合うことにより、相手への理解が深まるとともに、相手を気遣い、温かい雰囲気ですchool生活を送ろうとする意欲を高めることができた。

帯広市立稲田小学校

取組の名称 児童会主体の「ありがとう・お願いボックス」の取組

12月1日(金)～2月29日(木)

場所：帯広市立稲田小学校廊下

校長名 鈴木 宏 和

全校児童数 561 名



【設置したボックスの様子】

取組の概要

いじめ根絶に向け、児童がお互いのよさを認め、温かい雰囲気醸成することの大切さに気付く中で、いじめを許さない態度を育成することをねらいとし、児童会が中心となって「ありがとう・お願いボックス」を設置した。友だちのよさを認め、感謝を伝えることにより、思いやりの心を育むとともに、「こうしてほしい」という思いを共有することにより、相手を理解し、尊重することで、いじめを許さない態度の育成を図った。

【児童の感想】

何気ない行動や言葉が、相手の気持ちを明るくさせていることに気付いた。自分もこれからの生活の中で、相手に優しくしたいという気持ちをもった。

成 果

児童の感謝や願いを共有することにより、児童が気持ちを明るくし、相手への理解を深め、尊重することの大切さに気付くことができ、学校全体に温かな雰囲気を醸成し、いじめを許さない態度の育成につながった。

帯広市立豊成小学校

取組の名称 児童会主体の「いじめ防止標語」の取組

6月26日(月)・27日(火) 給食時間

場所：帯広市立豊成小学校ホール・各教室

校長名 平 野 司

全校児童数 624 名



【いじめ標語を紹介する様子】

取組の概要

全校児童がいじめについて主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない心の育成を図ることをねらいとし、「いじめ防止標語」作成に全学級で取り組んだ。Web会議システムを活用して、給食時間に全校児童に紹介するとともに、各学級のいじめ防止標語を、玄関前の窓ガラスや教室の前後の扉に掲示するなど、児童が学校や教室への出入りの際に常に目にすることにより、意識できるよう工夫した。

【児童の感想】

自分たちで作成した標語を、1年間忘れずに守っていきたいし、困ったときは助け合えるクラスをつくりたいと思った。

成 果

標語作成を通して、自分たちのクラスをどんなクラスにしたいのかを主体的に考えることにより、互いを理解して認め合い、尊重することの大切さに気づき、いじめを絶対に許さない態度の育成につながった。

帯広市立栄小学校

取組の名称 児童会主体の「趣味カフェ」の取組

2月20日(火) 2時間目

場所：帯広市立栄小学校各教室

校長名 和田 尚 史

全校児童数 365名



【「趣味カフェ」活動の様子】

取組の概要

ファミリー・サミットでのいじめ撲滅に向けた話合いから、児童会事務局が中心となり、異学年が交流し、互いに認め合い、全校児童がいじめについて考えることをねらいとして、「趣味カフェ」を開催した。学校が、児童にとって、温かい居場所となるよう、異学年の児童同士が、自分の趣味や特技を伝え合うことにより、互いの理解を深め、多様性を認め合うとともに、いじめを許さない雰囲気醸成を図った。

【児童の感想】

下級生と同じ話題で話すことができ、楽しかった。これからはもっと気軽に声をかけたり、あいさつしたりできると思う。困ったことや悩み等、相談ごと話してほしい。

成 果

「趣味カフェ」を通じて、異学年が交流を深める機会になるとともに、上級生は下級生を気遣って思いやったり、下級生が困ったときに上級生に頼ったりすることにより、児童同士の関わりを深め、学校全体でいじめを許さない雰囲気を醸成することができた。

帯広市立若葉小学校

取組の名称 児童会主体の「若葉こどもフェスティバル」の取組

1月15日(月) 3時間目

場所：帯広市立若葉小学校(教室・体育館等)

校長名 山 田 知 史

全校児童数 512名



【何でもバスケットの様子】

取組の概要

全校児童が交流し、仲良くなることで、相手意識を醸成し、いじめを未然防止にすることをねらいとして、第4学年以上の学級が催し物を考え、全校で交流し楽しむ「若葉こどもフェスティバル」を開催した。高学年は、低学年に楽しんでもらえるような催し物を考える中で、上級生としての自覚や相手意識の醸成を高め、いじめ根絶につなげることを目的とした。

【児童の感想】

初めて話す人でも楽しんでくれてうれしかったし、他の学年にどんな人がいるか分かってよかった。学年関係なくみんなに優しくすることが大切だと思った。

成 果

全校児童が交流を通して、相手を思いやる気持ちをもつというねらいを達成できたとともに、最後に「いじめはどんなことがあっても許されない。学年関係なくみんなで仲良くしよう」と全校で確認し、いじめを絶対に許さない態度の育成につながった。

帯広市立広陽小学校

取組の名称 児童会主体の「全校集会」の取組

7月12日(水)3時間目

場所：帯広市立広陽小学校グラウンド

校長名 野田 淳

全校児童数 346名



【全校集会の様子】

取組の概要

児童会代表委員会が主体となり、他者との関わることのよさを感じ、明るく楽しい学校生活を送る中で、自己有用感を高めることをねらいとして、学年の枠を越えた全校集会活動を行った。全校で声をそろえて校歌を歌ったり、児童会代表委員会の企画によるクイズやゲームに取り組みんだりする交流を通して、楽しみながら、異学年間の交流の輪を広げ、互いの理解を深める活動を行った。

【児童の感想】

ゲームの中で、下の学年と関わることができて、楽しかった。普段の生活の中でも、違う学年の人と仲よくしたり、交流したりしていきたい。

成 果

取組を通して、同学年の友だちとの関わりをはじめとして、異学年の児童同士が関わる活動を意図的に設定することにより、児童同士が相手意識を高め、思いやりの気持ちをもって関わる中で、いじめを絶対に許さない雰囲気醸成を図ることができた。

帯広市立花園小学校

取組の名称 児童会主体の「みんな仲良く～給食交流会～」の取組

1月26日(金)給食時間

場所：帯広市立花園小学校各教室

校長名 菅原 優博

全校児童数 179名



【給食交流会の様子】

取組の概要

学級の垣根を超えて、多様な人との関わりを促し、子どもたちの居場所づくり、絆づくりにつなげることをねらいとして、児童会が主体となり、「みんな仲良く～給食交流会～」を企画した。1年生から6年生までの異学年グループをつくり、給食を食べたりクイズを出し合ったりして交流を図ることで、学校全体でいじめの未然防止に向けた取組の充実を図る。

【児童の感想】

いろいろな人と交流して楽しかった。他の学年の人ともっと一緒に遊びたい。給食交流会をすることで友だちが増えたような気がした。

成 果

異学年交流の機会を通して、児童同士が互いの理解を深め、認め合い、校内での絆づくりにつながるとともに、「学校が楽しい」という思いが高まり、いじめを絶対に許さない雰囲気のある安心安全な居場所づくりにつながった。

帯広市立啓北小学校

取組の名称 児童会主体の「全校あいさつ運動」の取組

11月7日(火)～3月19日(火)

場所：帯広市立啓北小学校校廊下

校長名 西 田 健 一

全校児童数 347名



【全校あいさつ運動の様子】

取組の概要

いじめを絶対に生まない環境をつくること、いじめを絶対に許さない態度の育成をねらいとして、児童会事務局が中心となり、第1～6学年全員が参加する「全校あいさつ運動」を企画した。低学年と高学年がペアになり、校内7か所で毎週火曜日にあいさつ運動を行うことにより、あいさつをきっかけに、様々な児童が交流しながら明るい学校の雰囲気の醸成を図った。

【児童の感想】

みんなであいさつできる明るい学校を目指したことで一体感ができた。第1学年も元気に挨拶していた。進んで声をかける力が付いたと思う。

成 果

全員が参加する取組を継続して取り組んだことにより、学校が明るい雰囲気に包まれ、一人一人がこの学校の大切な一員であるという気持ちや、学年関係なく仲よくしようという意識が高まったことにより、いじめを絶対に許さない雰囲気が醸成された。

帯広市立開西小学校

取組の名称 児童会主体「ミッションビンゴ」の取組

1月22日(月)～2月2日(金)

場所：帯広市立開西小学校各教室

校長名 阿 部 昌 己

全校児童数 239名



【ビンゴの集計の様子】

取組の概要

児童がいじめを未然防止するための行動を主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとし、同じエリアの緑園中学校の取組である「ミッションビンゴ」をエリア3校で共通して取り組んだ。児童会代表委員会で、低学年用と高学年用の児童同士の交流を深めるミッションを取り入れた「ミッションビンゴ」を行うことにより、児童同士の交流を図った。

【児童の感想】

低学年がビンゴをうれしそうにもっていく姿を見て、うれしかった。他学年にも交流が広がるようになってよかった。

成 果

ビンゴのミッションを達成するために、自分から挨拶をしたり、学年を超えて教室に来て質問したりするなど、児童同士が主体的に関わることにより、全校の交流の輪が広がり、互いを理解し、認め合う雰囲気の醸成につながった。

帯広市立明和小学校

取組の名称 児童会主体のミニ集会の取組

1月12日(金)2時間目

場所：帯広市立明和小学校体育館

校長名 新川 和 範

全校児童数 267名



【全校玉入れ競争の様子】

取組の概要

児童が、仲間と協力しながら一つのことに取り組むことを通して、相互理解を深め、思いやりの心を育てることにより、いじめの未然防止につなげることをねらいとして「全校玉入れ競争」を行った。児童会代表委員会が中心となって企画運営し、タイムが短かった学級のベスト3を発表することにより、お互いの健闘をたたえ合い、相互理解を深めた。

【児童の感想】

コロナ禍では、全校みんなで集まることができなかったけれど、ミニ集会で、全校みんなで活動できて、とても楽しかった。これからも異学年の交流をしたい。

成 果

学級全員で協力して活動することを通じて、学級の児童同士の連帯感を高めることができた。また、互いの学級が、声援を送り、健闘をたたえる姿も多く見られるなど、互いを認め合う心を育み、いじめを絶対に許さない雰囲気醸成することができた。

帯広市立森の里小学校

取組の名称 児童会主体の「ミッションビンゴ」の取組

12月中旬

場所：帯広市立森の里小学校各教室

校長名 菅 沼 真 弓

全校児童数 241名

高学年 号令や返事の声を1.5倍にする	あいさつを10人にする。	誰かのためになることを1回する。
助けてもらったり、親切にしてもらったときにありがとうを毎回言う	誰かにその人のいいことを伝える	ハンカチ・ティッシュを持ち歩く
はっきりとした声で発表をする	机の上の消しカスを休み時間ごとに捨てる	地域の人に1回挨拶をする

【ミッションビンゴの内容】

取組の概要

児童がいじめを未然防止するための行動を主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとし、「いじめ防止月間」に「ミッションビンゴ」の取組を実施した。エリア内の小・中学校が連携を図り、ファミリー・サミットにおいて、「いじめ防止」に向けた取組を紹介し合い、共通して取り組むことができる活動を考え、各学校において取組を実施した。

【児童の感想】

いじめを防止するための行動をいろいろと考えることができた。いじめを防止するために普段からできることがあることに気付いた。

成 果

エリアの小・中学校で共通した取組を行うことにより、児童会と生徒会が連携し、「いじめ防止」について考えたことにより、児童による主体的な取組につながり、全校の交流を深め、いじめを絶対に許さない雰囲気の醸成を図ることができた。

帯広市立つつじが丘小学校

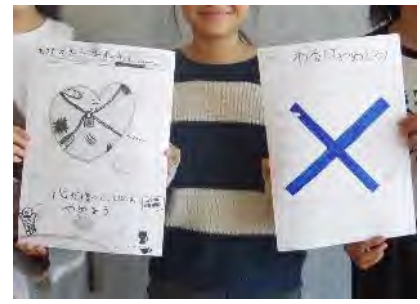
取組の名称 児童会主体の「いじめ防止・根絶」の取組

11月24日(金)6時間目

場所：帯広市立つつじが丘小学校各教室

校長名 千頭 洋

全校児童数 222名



【作成したポスター】

取組の概要

エリアの児童会と生徒会が、自主的な活動を通して「いじめ防止・根絶」を実現し、いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、各学校の取組状況を報告するとともに、各学校における「いじめ防止・根絶」の意識向上に向けて協議した。各校の取組を参考に、児童会三役が作成したポスターを持って各教室で「いじめ防止・根絶」の取組を説明することで、「いじめ防止・根絶」の意識を高める啓発活動を行った。

【児童の感想】

中学生の取組を知ることができてよかった。他の学校の取組を参考に、ポスターを作成し、全ての教室で呼びかけることができてよかった。

成 果

エリア内の小・中学校が連携を図り、「いじめ防止・根絶」の取組を交流し、エリア全体で一貫した取組を行うことにより、「いじめ防止・根絶」に対する意識を高め、いじめの未然防止につなげることができた。

帯広市立川西小学校

取組の名称 児童会主体の「ふれあい集会」の取組

12月5日(火)6時間目

場所：帯広市立川西小学校体育館

校長名 武田 真

全校児童数 230名



【仲間づくり活動の様子】

取組の概要

児童会・生徒会が中心となり、小・中学生が各学校におけるいじめ防止に向けた取組を紹介し、互いの様子を知り交流を深めることをねらいとして、「ふれあい集会」を実施した。いじめ防止に向けた各学校の取組の相互交流を行うことにより、各学校における取組の充実につなげるとともに、各学校で企画したゲームを通じて、相互理解を深める活動を行った。

【児童の感想】

仲間づくりゲームで一緒になった中学生のお兄さん・お姉さんと自己紹介をしたり、学校生活の話ができたりして、とても楽しい時間だった。

成 果

いじめ根絶に向け、積極的に児童会・生徒会交流を行うことにより、異学年間の交流が促進され、上級生が下級生を思いやる気持ちが育まれるなど、エリア全体でいじめを絶対に許さない風土を醸成することができた。

帯広市立清川小学校

取組の名称 児童会主体のいじめ根絶のための取組

毎月の思いやり目標、スマイル委員会

場所：帯広市立清川小学校体育館 他

校長名 新 津 貴 裕

全校児童数 47 名



【スマイル委員会の企画の様子】

取組の概要

「思いやり運動」を通して、全校児童が、友だちに対して思いやりの心をもつことの大切さを確認し、いじめを許さない態度を育成することをねらいとし、児童が主体となって、「思いやり運動」を推進した。月ごとに「思いやり目標」を考えて朝の会で説明し、ポスターを全学級に掲示した。また児童会「スマイル委員会」が、学校をよりよくするための活動を考え、イベント等を行うことにより、全校の交流を深める活動を行った。

【児童の感想】

イベントを企画するのは楽しく、低学年にも喜んでもらえてよかった。みんなと踊れて楽しかった。またイベントをやってほしい。

成 果

スマイル委員会の取組では、相手意識をもって企画を考えることで、児童が相互理解を深めるとともに、「思いやり目標」の掲示と振り返りにより、友だちに対する思いやりの心の大切さを学び、いじめを絶対に許さない雰囲気の醸成を図ることができた。

帯広市立広野小学校

取組の名称 児童会・生徒会主体の小中交流会の取組

12月18日(月)5時間目

場所：帯広市立八千代中学校体育館

校長名 萩 原 徳 幸

全校児童数 26 名



【交流会の様子】

取組の概要

エリア内の交流会において、中学生と合同の活動を通して交流を深め、考え方の視野を広げたり豊かな人間関係を築いたりすることをねらいとして、八千代中生徒会書記局と広野小児童会事務局が中心となり、小中交流会を開催した。各グループでは、中学生のリーダーを中心として、紙飛行機の作り方や飛ばし方について話し合うなど、小・中学生が協力して交流を深めることができる企画を考え、実施した。

【児童の感想】

中学校に進学するのは少し不安だったけど、中学生と交流をしたことによって、不安が解消された。みんなも楽しそうだったので、交流ができてよかったと思った。

成 果

児童が、優しく教えてくれた中学生に言葉やメッセージカードで感謝の気持ちを伝えることにより、他者を思いやり、友だちに優しく接する様子が見られるなど、互いを認め合う態度が育成され、いじめを絶対に許さない風土を醸成することができた。

帯広市立大正小学校

取組の名称 児童会主体によるあいさつ運動の取組

12月第1週

場所：帯広市立大正小学校2階廊下

校長名 田中善久

全校生徒数 122名



【挨拶活動の様子】

取組の概要

朝の挨拶による児童同士のコミュニケーションを通して、気持ちのよい学校生活を送り、誰もが安心して過ごせる学校の雰囲気醸成することをねらいとし、児童会事務局が中心となり、朝のあいさつ運動を行った。児童同士があいさつすることを通して、交流を深めることができるよう、児童会事務局が、積極的にあいさつの声かけを行うとともに、全校に対して、学年に関わらず互いに挨拶を交わすよう働きかけた。

【児童の感想】

年上の人たちが、とても優しくかった。普段、あまり話さない学年の人と挨拶をしてから、どこで会っても話せるようになった。

成 果

あいさつ運動週間を設定したことで、「たくさんの友だちに優しく明るく声をかけよう」という気持ちが芽生え、異学年の交流も深まり、お互いを大切にしようとする気持ちを育むとともに、いじめを絶対に許さない雰囲気の醸成を図ることができた。

帯広市立愛国小学校

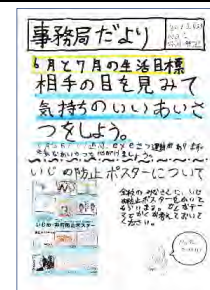
取組の名称 いじめ防止ポスターと「eyeさつ運動」の取組

6月23日(金)～2月9日(金)

場所：帯広市立愛国小学校

校長名 萩原啓司

全校児童数 25名



【事務局だより】

取組の概要

児童が、お互いに気持ちよく学校生活を送り、「いじめを絶対に許さない」態度の育成を図ることをねらいとして、いじめ防止のポスターの作成と掲示、「eyeさつ運動」に取り組んだ。児童会事務局が、登校時間帯に玄関ホールに立ったり、各教室を回ったりするなどして、目を合わせて元気に挨拶することを全校児童に呼びかけるとともに、素敵な挨拶をしていた児童をお昼の放送で発表することにより、挨拶への意欲を高めた。

【児童の感想】

いじめや挨拶について、しっかり考えることができた。みんなが意識して目を合わせて挨拶をしてくれるようになった。全校児童がさらに仲よくなったと感じた。

成 果

いじめ防止ポスターの掲示や「eyeさつ運動」を継続的に行うことで、目を合わせて挨拶をすることのよさを実感し、児童同士の信頼が深まるとともに、他者を大切にす気持ちが育まれ、いじめ根絶に対する意識の高まりが見られた。